平成２４年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1　学力向上を図るとともに資格取得を奨励し、生徒全員の進路実現をめざす。	①　シラバスの内容改善と、教科研究会や研究授業の研究協議会、互観授業を充実させ、各教科と学科を核にして学校全体で授業改善に取り組む。	各教科と学科で授業改善についての取組を Ａ　各学期に３回以上取り組んだ Ｂ　各学期に２回取り組んだ Ｃ　各学期に１回取り組んだ Ｄ　全く取り組むことができなかった	教職員対象に １２月にアンケート調査 Ａ：４６％　Ｂ：３７％ Ｃ：１４％　Ｄ：　３％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて８３％	アンケート結果はＡ・Ｂ合わせて８３％となり、判定基準の７５％（昨年度比５ポイントアップ）をクリアした。今年度は９月の総合訪問で多数の研究授業を実施した他、定例の研究授業も２学期に集中して実施し、互観授業も昨年より１回増やして全員年３回以上とした成果によると考えられる。 次年度に向けては、昨年の最終評価より６ポイントアップした半面、Ｄの割合が０％から３％に増加し、全員の複数回の授業改善にまで至っていない現状もあり、今後も改善意識を高めていく必要がある。判定基準は継続し、次年度もさらに研究協議会やシラバスの内容改善、新学習指導要領に沿った評価規準の作成等により授業改善の質を高めていきたい。
	②　学力向上を図るために授業の課題やレポート内容を工夫するとともに、資格取得の補習指導を通して学習習慣を身に付けさせる。	課題・レポート・資格取得などや家庭での学習活動について Ａ　十分取り組むことができた Ｂ　おおむね取り組むことができた Ｃ　あまり取り組むことができなかった Ｄ　全く取り組むことができなかった	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：１９％　Ｂ：５７％ Ｃ：２０％　Ｄ：　４％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて７６％	アンケート結果は、Ａ・Ｂ合わせて７６％となり、中間評価の８７％から減少し、判定基準の８０％（昨年比５ポイントアップ）をクリアできなかった。特にＡ「十分取り組むことができた」の減少幅が大きかった。原因として朝・昼・放課後・夕方以降の補習時間を大幅に増加させ、学校で家庭での学習課題の指導を行ったため、家庭学習の必要性が減ったと考えられる。 次年度に向けては、資格・検定の合格者数が増加していることを考えると、判定基準は継続し、補習後も必ず家庭学習を行うように働きかけ、学校から家庭での自発的な学習になるように改善したい。
	③　生徒が興味を持っている本を調査し、優先的に配置するなどにより図書室の利用を促し、調べ学習や読書習慣を身に付けさせる。	２学期末での図書室の延べ利用者数が Ａ 4,000 人以上　（１学期末 1,500 人以上） Ｂ 3,500 人～ 3,999 人　（１学期末 1,400 人～　） Ｃ 3,200 人～ 3,499 人　（１学期末 1,200 人～　） Ｄ 3,200 人未満　（１学期末 1,200 人未満）	２学期末までの延べ利用者数 ４，３９７人 評価：　Ａ	４月に全校生徒に読書アンケート調査を行い生徒の希望図書をあげてもらって図書購入をした。先生方にも生徒に読ませたい図書の希望調査を行い購入することにより授業での活用も進んだ。 ７、８月は特に多くの生徒が図書室を利用し、各自、興味を持っている本を手にして読んでいた。 図書委員会活動では、当番日の読書ノートと図書日誌を必ず書いて記録を残した。手作りの図書便りを２ヶ月に１回作成し、全校生徒に配布している。次年度も図書委員会の活動をさらに活発にし、生徒の読書習慣の向上をはかりたい。
	④　資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、課外補習をさらに充実させ合格者数を増加させる。	１月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で Ａ　７５０人以上 Ｂ　６５０人～７５０人未満 Ｃ　５００人～６５０人未満 Ｄ　５００人未満	１月末の資格・検定試験合格者数を検証 １月末現在８５８人 評価：Ａ	１月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は８５８人となり、判定基準であるＢ評価（６５０人以上）を達成できた。昨年より１１０人基準を高くしたが、２学期以降に受検した多くの資格・検定について、教務課とも連携した資格・検定試験の受験奨励および補習の充実等により目標が達成できたと考えられる。 今年度の３月末までの受験者総数は前年度比２８０人減少の予定であり、次年度も同じ合格者数の判定基準で実施し、受験奨励と指導の充実により合格者数を増加させ、学力向上と進路実現につなげたい。
	⑤　ジュニアマイスターのゴールド・シルバーに加えて校内顕彰のブロンズを新設し、学校全体で多くの資格や検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスターおよび校内認定者数が学校全体で Ａ　６０人以上 Ｂ　５０人～５９人 Ｃ　４０人～４９人 Ｄ　３９人以下	１月の申請者数を検証 １１９人 （ゴールド２３人） （シルバー３７人） （ブロンズ４９人） 評価：　Ａ	１２月末現在の集計で、認定者数合計はゴールド・シルバーの合計が６０人で、今年度新設した校内顕彰の「ブロンズ」を入れなくてもＡ評価となり、過去最高となった。今年度は「ブロンズ」の新設もあり昨年の２倍に目標設定したが、２年生の申請者が多数出たため達成できた。しかし、ゴールド特別表彰がなく、難易度の高い資格・検定合格に向けて、生徒への働きかけと補習等の充実が課題となった。 次年度も申請者数の変動も考慮して同じ判定基準で実施し、１年次から３年間通して３種類の顕彰申請を目指しながら、学校全体で資格・検定への挑戦意識を高めて上位の認定者数を増加させたい。
	⑥　インターンシップを通して適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やＬＨなどで進路に向けた情報提供を行なう。	進路説明会・LHなどによる説明や配布した進路情報により、意識が高まった生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上９０％未満 Ｃ　７０％以上８０％未満 Ｄ　７０％未満	生徒対象に １２月にアンケート調査 評価：Ｂ（８９％）	意識が高まった生徒は、全体で８９％であり評価はＢである。中間評価は、全体で８５％であり、意識が高くなっている。今年度は、12 月に「地元企業で働く卒業生による企業説明会」を 1，2 年生全員に実施した。自分の進路に役立ったという生徒は、９１．４％と好評であった。進路意識を早い時期から意識させ、継続させていくことが自己実現には大切であると考え、学年や各工業科と協力して取り組んでいきたい。次年度は、進路指導室を有効に使い進路資料の活用方法や、進路面談等でより細かな対応を考えていきたい。
	⑦　進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。 外部講師による講演や面接指導、担任による個別面談を充実させる。	学力テストや面接指導等により、実力がついた割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上９０％未満 Ｃ　７０％以上８０％未満 Ｄ　７０％未満	３年生を対象に １２月にアンケート調査 評価：Ａ（９０％）	実力がついたと思う生徒は、９０％であった。評価はＡである。ＳＨや空き時間を利用した就職問題の取り組み、月１回の作文添削で基礎学力を見直し、表現力もつけさせた。７月からは、面接指導を学年会や工業各科、管理職と協力し、試験まで繰り返し行ってきた。今年度は、２年生には学年会と協力し、基礎問題演習の取組を行っている。次年度は、企業の求める人材について積極的に研究し、その力を継続的につけさせる様に、効果的な指導を行っていきたい。
		学校斡旋就職試験の第１回目試験での内定率が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上９０％未満 Ｃ　７０％以上８０％未満 Ｄ　７０％未満	３年生を対象に 秋に調査 評価：Ａ（９３％）	１回目の内定率は、９３％で評価はＡである。求人件数は、昨年度より１００件ばかり増加した。一方就職希望者も、昨年度５８％から７８％と増加した。今年度の特徴として、求人件数は、製造業はほぼ昨年度並みであったが、1 企業が採用する人数が制限され、応募者の競争が厳しくなった。生徒には面接練習を中心として早くから受験対策に取り組ませてきた。１回目で残念であった生徒も２回目では、全員内定を得た。次年度は、普段の手厚い指導をより一層充実させると共に、企業が求める人材の情報を積極的に集め、計画的に対応していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	○図書原簿に記載されている高浜高校との関わりは何か。○図書室に置いてある新聞の種類はいくつか。○教師が生徒に読ませたい本をアピールしてはどうか。 ○ジュニアマイスターの取組を評価する。○ジュニアマイスター取得率は、県内工業高校と比べてどのようなものか。能登地区唯一の工業高校として資格取得にしっかり取り組んで欲しい。 ○資格取得には費用もかかるので、その必要性も理解させて欲しい。 ○補習についての取組はどのようなことをしているか。 ○進路決定が１００パーセントと聞き、学校に感謝する。　○先輩と語る会はどのような内容で行っているのか。○経験を積んだ先輩の意見も取り入れると良いと思う。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策等	○高浜高校機械科閉科時に書籍の寄贈を受けて原簿に記載し本校書籍として活用している。○地方紙、経済新聞などほとんどの新聞が閲覧可能で、生徒への情報提供の一助としている。 ○教師からの読書提案は貴重な意見と考えている。教師の薦める書籍については、生徒へ配布する図書新聞に案内している。 ○各種資格の取得率の集計比較は難しい。○ジュニアマイスターの取組はここ数年で最大の成果が上がり、今後も大切に取り組む。○資格取得の意義については、意見のとおり生徒へも説明をしたい。 ○家庭学習時間が少なく教科書を学校に置いているが、実態として多くの生徒が放課後に補習や自主学習等で教師をうまく活用して学校で学習している。 ○朝夕の補習に取り組んでいるが、より効果的な時間帯などについての検討が必要である。○年２回、大学進学や就職した直近の卒業生を招き話す機会を持っている。有意義な活動となっている。

重　点　目　標	具　体　的　取　組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
２　生徒会活動や部活動を活性化させ、人間性に富み、心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。	①　本校の運動部は、県高校総体・新人大会でベスト８以上、高体連表彰敢闘賞獲得を目指す。	ベスト８以上の運動部が Ａ　５０％以上（９部以上） Ｂ　４０％以上５０％未満（７～８部） Ｃ　３０％以上４０％未満（６部） Ｄ　３０％未満（５部）	県総体と県新人の結果 ベスト８以上：９部 評価：Ａ	１１月に実施された新人大会でベスト８以上の成績をおさめた部活動は７部である。新人で新たにベスト８以上に躍進した部活動は弓道部男子と陸上競技部であった。これで本年度総体・新人ベスト８以上の成績を獲得した運動部は９部になった。 今年度の高体連表彰の成績は学年４クラス以内の部門で３位であった。２位とは１ポイント差で、昨年度は５位にも入っていなかったことに比べると格段に躍進している。敢闘賞獲得目指して不断の努力を重ねるよう働きかけをしていきたい。
	②　文化部で部活動への重複加入を奨励し、学校祭以外にも校内外での発表・展示・公開・行事参加等の機会をさらに増加させる。	各文化部が学校内外で発表、展示、公開・行事参加等の機会を持った回数が、 Ａ　７回以上 Ｂ　５～６回 Ｃ　３～４回 Ｄ　２回以下	各文化部対象に １月に調査 Ａ：４０％　Ｂ：３０％ Ｃ：３０％　Ｄ：　０％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて７０％	日常的に活動している文化部は１０部、その部だけを対象に調査した。どの文化部も生徒の活動の機会を増やす工夫の跡が見られた。（昨年度Ａ３０％、Ｂ４０％、Ｃ１０％、Ｄ２０％）校内では廊下の目につくところに、生徒の作品がよく展示され、また、校外への活動もそれぞれ増やそうとしていた。特にコンピュータ部は「ものづくり教室」を県内各地で小・中学生を対象に月２回程度開いており、たいへん好評で新聞にも掲載された。 次年度も引き続き、工夫ある活動の機会を増やすよう働きかけていきたい。
	③　生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会行事に満足しているか Ａ　たいへん満足した Ｂ　おおむね満足した Ｃ　あまり満足できなかった Ｄ　まったく満足できなかった	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：３４％　Ｂ：５３％ Ｃ：１０％　Ｄ：　３％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて８７％	全ての生徒会行事にも、昨年度の反省や多くの意見を取り入れながら、生徒会が自発的に運営していた。そのため昨年度よりも良い評価を得た。（昨年度Ａ・Ｂ合わせて８４％）特に羽工祭では９６％の生徒が「満足している」と回答し、これも昨年度よりも良い評価を得た。（昨年度９４％） 次年度もさらに工夫と多くの意見を取り入れ、引き続き取り組んでいきたい。
	④　保健だよりや集会、ＳＨ等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか Ａ　常に意識している Ｂ　ある程度意識している Ｃ　あまり意識していない	生徒対象に １月にアンケート調査 Ａ：１４％　Ｂ：６０％ Ｃ：２４％　Ｄ：　２％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて７４％	１月にアンケート調査を実施した。インフルエンザや感染性胃腸炎が校内でも見うけられたため、感染症の予防とあわせて調査をした。中間評価と比較するとＡ・Ｂあわせて２％のアップとなった。大きな変化がない代わりに７０％を超える生徒が自分の心身の健康管理を意識していることがうかがえる。 う歯の治療や心の健康も含め、次年度以降についても意識して自らの健康管理が出来る生徒を育てるための取り組みを工夫していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	○限られた生徒数で部活動の活性化に有効な部活動数や部員数について考えなくてはならないと思う。 ○さらなる部活動の活性化のために、地域の専門家、指導者の活用を考えてみてはどうか。 ○コンピューター部、美術部など文化部の活躍と地域への関わりを知ることができた。。 ○いじめに関するアンケート実施状況と保健室の利用状況、生徒の心のケアについての現状を聞く。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策等	○生徒数を考えると現在の部活動数は上限であるが、生徒の自主的意　欲から活動しており、精選等の課題は生徒数の推移など、今後の状況に注意しながら考える課題である。 ○文化部は、地域との交流や連携などを積極的に行っている。今後も地域の行事への参加などで連携を深めたい ○いじめの調査は、生活に関する調査とともに年２回行っている。 ○保健室登校生徒はおらず、多くの生徒が多少の不調でも登校する。 ○保健室登校など、こころのケアを必要としている生徒は現在いないが、状況に備えて校内委員会を持ち情報交換などを行っている。

重　点　目　標	具　体　的　取　組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
３　工業学習成果の提供や奉仕活動等を通して地域社会との連携を深め、環境保全や社会貢献に対する意識を高める。	①　社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、校外でも１日１善運動を推奨する。	１日１善運動について Ａ　毎日必ず実践している Ｂ　できるだけ実践している Ｃ　あまり実践していない Ｄ　全く実践していない	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ　１７％　Ｂ　５５％ Ｃ　２２％　Ｄ　６％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて７２％	Ａ・Ｂ合わせて７２％であり、中間評価の７８％よりも６ポイント減少している。昨年度の最終評価は８１％であり、明らかに１日１善の意識が薄くなっている。 ７２％の値は決して低いとは言えない。生徒会の取り組み方や活動は以前と変わっていないが、やや個人の意識が低下ぎみになってきたと思われる。この運動について、個人の意識の高揚についても再検討し、より向上発展していけるよう工夫をしていきたい。
	②　社会生活を営む上で、ルールやマナーの必要性を理解させ、実践的指導により交通ルールとマナーを遵守する生徒を育てる。	自分自身の自転車乗車ルール（規則）について Ａ　ルールを守り安全に運転している Ｂ　ルールをある程度守り運転している Ｃ　ルールをあまり守らず運転している Ｄ　ルールを守らず運転している	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ　３７％　Ｂ　５４％ Ｃ　８％　Ｄ　１％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて９１％	１２月アンケートではＡ・Ｂ合わせて９１％であり、昨年度の最終結果（８５％）と比較すると生徒の交通ルールに対する意識の向上が伺える。例年と比べ１年生が年度後半の学校生活に慣れてからも安全意識を維持していた。。今年度は２件の自損事故があり、自分の命を守る大切さや一つ間違えば加害者にもなりかねないことなど、今後も自転車乗車に関する意識の向上を高めるために、全校集会、学年集会、ＬＨ等を通して注意を促し、地域の関係機関と連携を図りながらより一層組織的に取り組んでいきたい。
	③　Ｗｅｂページの定期的更新間隔を短くし、学校全体の情報公開のスピードを上げる。また、教育活動や部活動のタイムリーな情報を発信し、更新状況等を分かりやすくする。	ホームページを更新した回数が Ａ　５０回以上 Ｂ　４０回以上５０回未満 Ｃ　３０回以上４０回未満 Ｄ　３０回未満	各担当・各部対象に １月に調査 更新回数回５１回 評価：Ａ	１月までの各課・科や部活動のホームページ更新回数が５１回となり、判定基準であるＢ評価（４０回以上）を達成することができた。今年度は、よりタイムリーな情報発信を目的に、昨年の２．７倍に基準設定し、ホームページ全体もリニューアルするなどの改善も実施した。教職員の情報発信の意識高揚と、更新しやすくまた情報検索したくなる工夫を行った結果であると考えられる。 今年度は創立５０周年の行事等もあり情報発信が多くなったとも考えられるため、次年度も同じ判定基準で実施したい。また、行事や部活動、学校の活動状況の写真や映像の掲載を増加させるよう検討し、今後も教職員への情報発信をこまめに働きかけて目標達成に向けて努力していきたい。
	④　環境保全のこれまでの取組を継続し、ゴミ分別等が正しく行われているかを評価する。 職員・生徒がゴミを出さない意識づくりができるように、掲示物作成等により美化意識の向上を目指す。	１５点以上の教室が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上８０％未満 Ｃ　６０％以上７０％未満 Ｄ　６０％未満	ＩＳＯ委員により各学期１回各教室を一週間調査（１日２０点満点で評価） １５点以上の教室：100％ 全教室平均点：１８点 評価：Ａ	１学期 18.０点、２学期 18.０点、３学期 18.１点と３回実施した調査とも、クラス平均点はすべて高い水準であった。評価はＡである。各クラスとも担任・生徒が意欲をもって取り組んでいた。実施期間以外での継続した清掃意識の向上に向け、次年度では期間の延長や採点基準をさらに見直し、引き続き取り組んでいきたい。
		ごみ減量について意識的に行動できたか Ａ　よくできた。 Ｂ　おおむねできた。 Ｃ　あまりできなかった。 Ｄ　まったくできなかった。	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：２６％　Ｂ：４２％ Ｃ：２６％　Ｄ：　６％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて６８％	生徒アンケート結果はＡ、Ｂ合わせて６８％となり、最終評価では判定基準の７０％をクリアできなかった。学年別では３年生の約８０％の生徒がＡ・Ｂと回答しているのに対し、１・２年生の回答は約６０％であった。３年生には意識の定着が見られるが、１・２年生にはまだ意識の定着が図られていない。しかし、ゴミ減量のための具体的行動をはっきりと示しにくい面もあるため、次年度は、ゴミの分別、節電、節水等の具体的取組に変更して取り組みたい。

学校関係者評価委員会の評価	○職員の１日１膳運動は行っているか。○社会貢献、挨拶を大切にする気持ちを育てて欲しい。 ○地域での本校と本校生徒への評判は大変良好で、全体的に、評価が向上していることがよくわかる。 ○地域共同避難訓練やボランティアに力を入れて、今後も地域へアピ　ールを続けて欲しい。 ○会社の同僚から本校生徒の挨拶のすばらしさについて伝えられ、大変うれしく思った。 ○公開課題研究発表会に多くの中学生が見学していた。 ○自転車乗車マナーだけでなく整備点検に心がけ、安全な乗車を指導して欲しい。 ○ＨＰはよく見てもらえているか。工業高校の特性を生かして生徒でＨＰ更新作業をしてはどうか。 ○ホームページのアクセス件数を把握しているか。 ○ゴミ減量の具体策はどのような内容か聞く。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策等	○１日１善運動で、教師も組織的にではないが気づいた時には行っている。　○挨拶等大切なマナーを校外でも行って欲しいと考えて指導している。 ○公開課題研究発表会には２００名強の地域中学生と保護者、外部の方が見学に見えた。今後も充実した内容で盛会にし、本校を案内する機会としたい。 ○地域共同避難訓練や地域ボランティアには今後も力を入れて取り組み、防災意識を高めたり地域との連携を深めたい。 ○１・２年生の自転車乗車マナーが良くなってきている。学校までの乗車は徹底指導できているが、自宅から最寄り駅までの利用把握等が必要と考えている。 ○ＨＰの内容は「公表」であり、作成や更新には細心の注意を払っているので、生徒の関わりにも難しい面があると考えている。 ○ＨＰ閲覧ヒット数はカウントしてるが、数にはこだわっていない。 ○生徒からはゴミが出ないので、次年度は節水や節電に着目して評価項目を設定して取り組みたい。